

牛乳と健康の関わり 共同研究へ講座開設

弘大と雪印メグミルク

弘前大学(福田眞作学長)と雪印メグミルク(本社東京、佐藤雅俊社長)は12日、乳製品と人の健康の関わりを共同研究する「ミルク栄養学研究講座」の開設式を都内で行った。弘大が弘前市で18年にわたって取り組んできた「岩木健康増進プロジェクト」健診のビッグデータを活用し、牛乳・乳製品を含む食事や腸内細菌などが健康状態に及ぼす影

響を研究、乳製品の持つ新たな価値を探る。

共同研究講座は弘大内に開設。同社の研究員らが参加し、データ解析が進めば弘前に常駐する方針で、健診プロジェクトへの参加も計画しているという。

開設式では、福田学長が「ビッグデータを活用して



講座の看板を掲げる(左から)雪印メグミルクの川崎功博常務、佐藤社長、弘大の福田学長、廣田和美医学研究科長

新たな知見がたくさん見いだされると期待している」とあいさつ。佐藤社長は「個人や団体、地域でそれぞれ健康課題が違う。ビッグデータから課題を抽出し、解決のヒントが得られれば」とし、成果を商品開発につなげたいとの考えを示した。

パネルディスカッションも行われ、1998年長野冬季五輪ノルディックスキー・ジャンプ団体金メダリストで同社スキー部アドバイザーの原田雅彦氏、同講座の特任教授を務める中路重之・弘大学長特別補佐らが登壇。競技における食生活の大切さなどについて意見を交わした。(加藤景子)